

恋とはどんなものかしら。

F「突然ですが、某メジャーリーガーに某高校生直木賞作家と結婚報道が続きましたね!」

M「本当に突然ね!? 何、急に」

F「今回のテーマは、恋ですが、なにぶん何度も取り上げているのでネタがないのです!」

M「わってかわい子ぶってもダメ」

T「で、でも恋が進んで結婚するパターンも多いですし……いいニュースですよ」

F「推しの幸せがわたしの幸せ」

T「Fさん、推してたんですか?」

F「いえ、そういうわけでは」

M「違うんかい。恋バナしようよー恋バナ」

F&T「うーん……恋……」

M「ないの!? 学生時代の片想いの話とか! 同窓会で再会した人といい感じになったとか!」

F「実体験となると……」

T「お話しできるようなことは……」

M「あら、Tさんちょっと意味深長」

T「いえいえ、ありません」

F「最近、小説にもいろいろな恋愛の形がありますね。ときめきを楽しむものだけじゃなくって。そういったものも展示本として集められたらなーと思っています」

M「そうねー。イケメンが強引にリードするっていうものばかりじゃないかも。そう、私呼ばれるなら下の名前に、さん付けがいいのよ!」

T「そうなんですか?」

M「ある漫画で男の人が相手の女性を「さん」付けて呼んでたのがいいのよ〜。相手は年下だったんだけど」

F「たしかに、優しい感じがしますよね。その漫画、私も好きです!」

T「……読んでみます」

M「お、Tさん今年はメモしますじゃなくて読んでみますでいくのね?」

T「いえ、そういうわけでは」

M「違うんかい」



←QR コードでも
アクセスできます

Instagram公開中 ここにアクセスしてね★

<https://www.instagram.com/hondarake55>

ホンダラケ

2024.4.1

悩みの十割は恋 (※ホンダラケ調べ)

M「また、適当な事言って……!」

F「人を悩ませることはおしなべて“好き”に根差しているのです」

T「……メモします」

M「しなくていいからっ」

『恋愛相談 「好き」だけじゃやっていけません』

森川成美/著 静山社 2023年刊



F/モリ

恋愛経験がなく、周囲に流されがちな美鳩は、帰国子女で我が道を行くアイ、トランスジェンダーで高校から女子として過ごしているゆきと三人で恋愛相談室を立ち上げた。一人目の相談者は、年上の彼氏とつきあっているという三年生。彼に言われるまま家出したいと考えているようで――。

誰かを好きになってその人とつきあう。恋愛はそこで終わりではありません。美鳩も悩みながら「つきあう」ときに大切なことを見つけていきます。ぜひ一緒に考えてみてください。

ホンダラケとは

本誌は、読者の身も心も「本だらけ」にしてやろうという心意気から生まれた中高生向け小冊子です。本誌に登場する本は全て三田市立図書館本館のYA (ヤングアダルト) コーナーでご覧いただけます。

2か月に1度、年6回発行予定です。

ホンダラケは皆様の投稿をお待ちしております。YAコーナーに用紙・ポストがございますので、おすすめ本や本誌の感想・要望などお寄せ下さい。

青春読書記

～三田学園図書委員会より愛をこめて～

テーマは「中学生になってから読んだ本」
リアル YA 世代たちは今どんな本を読んでいるのか?! この春、明らかに・・・!!!

『ライオンのおやつ』 小川糸／著 ポプラ社 2019 年刊

がんをわずらい余命宣告をされた主人公の雫は残りの人生をとあるホスピスで送ることになった。ホスピスでは毎週日曜日におやつの時間があり最後に食べたいおやつをリクエストできる。余命を告げられた雫の心の変化や心情、おだやかな島での生活や思い出。

ほほえましく、また少し悲しげなお話ですが、私たちにとって大切な本だと思います。

P.N. ころこ (中学1年生)



F/オガ

「こんな本、棚から見つけました」のコーナー

このコーナーでは、スタッフが棚を見て“再発見”をした本を紹介します

『「心」のお仕事 今日誰かのそばに立つ24人の物語』

河出書房新社／編 河出書房新社 2021 年刊



498. 1/21

この本には、精神科医やカウンセラー、公認心理師、研究者たちが考える「人の心にかかわること」が書かれています。自分や身近な人ではない、他人の心を支えようとする人々は、どんな気持ちで仕事に向き合っているのでしょうか。心についての仕事から知る、さまざまな実体験や考えかたは、同じ分野を志している人たちへのメッセージにもみえます。

心の持ちかたは人によって違うものです。この本は、そんなあたりまえのことに気づき、他人や自分の行動に対する考えかたをアップデートするキッカケになってくれます。

新着図書 Pick Up

『君色パレットⅡ すきなあの人』 岩崎書店 2024 年刊 神戸遥真／令丈ヒロ子／少年アヤ／こまつあやこ／著 いつか／絵



F/キミ

誰かを何かをすきだなあって思う気持ち。確かにそういう気持ちがあるけれど、例えばそれが同性の友達だったり、はたまた現実のヒトではなかったり、クラスで浮いてる子だったり。でも待って、なんですきだと思ったのかな？すきっていう気持ちってどこからくるんだろう？わかっているのは、この「すき」っていう気持ちは嘘じゃないってこと。そんないろいろ「すき」に直面した主人公たちの4つのおはなし。大切にしたいのは自分の気持ち。それぞれのおはなしの最後の一言がどれもぐっとくる作品集です。

難しいと思われているけれど、実は面白い 名作があるから読んでみてほしいんです。

『嵐が丘 (上・下)』 エミリー・ブロンテ／著 小野寺健／訳 光文社古典新訳文庫 2010 年刊

ヨークシャーにある「嵐が丘」と呼ばれる屋敷にやってきた青年ロックウッド。彼が使用人のネリーから聞くのは、美しい令嬢・キャサリンと下働きのヒースクリフとの身分違いの恋。ヒースクリフを捨ててお金持ちと結婚してしまったキャサリンに復讐するため、巨万の富を得て嵐が丘へ帰ってくるヒースクリフ。主人公をとりまく複雑な人間関係はもうわけがわからない！大変有名な作品ですが、なんと作者は若くして亡くなったため、これが唯一の作品だそうです。



933/プロ